



crossing cafe



Vol.26

2025.9.1

発行:スペースベン
毎月1日 340部発行〈webでも配信中〉
spacebenfans.com/kawaraban.html

TOPIC



フォーチュンシアター八戸メンバーによる企画公演

インフィニティドア

∞ Door 公演『ミディアムレア』

あの時、郵便局で。

作/中島千尋 演出/外館暢子

出演/野沢亜由美・澤田幸優・中田優鈴 (以上フォーチュンシアター八戸)
原和秀 (客演)

2025年 9月19日(金) 19:30開演

20日(土) 14:00/18:00開演

21日(日) 12:00開演

開場は30分前/上演時間約45分予定

●料 金/前売 一般 1,500円
学生 500円
(当日各500円増)

〈チケット予約〉 各回30席限定

https://t.livepocket.jp/e/fans1650



問合せ〈チケット予約も可能〉

フォーチュンシアター八戸 080-3144-6753(外館) https://fortune-theater.chips.jp
スペースベン owner@spaceben.com ☎080-6025-0990 ※出られない時は折り返しご連絡します

〈スペースベン 9月の予定〉

FANS 予定 第1648~1651回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

〈Dance Lesson〉

- 毎週月曜日 18:00~19:00/HARU House dance Beginner
- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。
■9/3(水)・17(水)開催(通常毎月第1・3水曜日開催) 14:00-15:30予定。
※イブセン「野帽」を予定
※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈Free Column〉

劇場の 片隅から

文/植田 祐介

演劇を始めた1981年、大学1年生。稽古は每晚9時近くまで。まばたき一つの演技まで注意されるものの、表現することが楽しく、稽古は苦にならない。新入生が中心となって作る新人公演。私は夫婦役。演出の先輩から妻役に指示が出る。「夫婦なんだから、もっと夫に寄り添え!しっかり役作りしろ!」妻役が答える「植田、くさいから近寄れません」「植田!いつ風呂に入ったんだ!」「ちゃんと3日前に入りましたよ!」「馬鹿野郎!風呂は毎日入るもんだ!」演劇が毎日、風呂に入る事を教えてくれた18歳の初夏でした。

2025年 9月19日 19:30
20日 14:00/18:00
21日 12:00

開場は30分前/上演時間約45分予定

●料 金/前売 一般 1,500円
学生 500円
(当日各500円増)

●チケット購入・予約
https://t.livepocket.jp/e/fans1650

080 (3144) 6753 (フォーチュンシアター八戸)
080 (6025) 0990 (スペースベン)
※お電話の際は「お申し込み」をお願いします

劇場/スペースベン
〒990-0001 青森県八戸市本町1-1-1
劇場/問合せ:フォーチュンシアター八戸 080(3144)6753(外館)
https://fortune-theater.chips.jp

●劇場 スペースベン



※公共交通機関でおいでいただくか近くのアパホテル裏の西町駐車場またはタイムズ八戸柏崎(どちらも有料)などをご利用ください

〈theater information〉



第35回青森県民文化祭 オープニングフェスティバル

【日時】2025.9.7(日) 13:00~15:30

第1部 式典(13:00~13:25)

第2部 響け この地に 南部の風よ
(13:30~15:30)

村次郎詩集「風の歌に寄せて」ほか

【会場】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公会堂)

【料金】無料

【問合せ】青森県民文化祭実行委員会

一般社団法人 青森県文化振興会議内

☎017-718-5454

https://r.goope.jp/aomori-bunkasai/

今回は八戸市をはじめとする三八地区
を中心に開催。分野別フェスティバル詳細
はホームページにて。

白マドの灯「昭和シネマ百景」 『二十四の瞳』

【日時】2025.9.13(土)

12:30開場/13:00開演(156分)

【会場】八戸クリニック街かどミュージアム

【料金】無料〈要予約〉

https://peatix.com/event/4478536/view

【トークゲスト】戴 周杰

(八戸工業大学 感性デザイン学部 助教授)

【問合せ】「白マドの灯」事務局

☎0178-32-7737

info@shiromado.com



寺山修司生誕90年記念 寺山修司原作・パロン吉元劇画 『あゝ、荒野』原画展

【日時】2025.11.24(月)まで開催中

【会場】三沢市寺山修司記念館

【入館料】一般個人550円

一般団体440円(20名以上)

高大生110円/小中学生60円

※土曜日は、小中学生無料 ※障がい者

手帳呈示の場合、本人と介護者1名は全額免除

【問合せ】三沢市寺山修司記念館

☎0176-59-3434

特別寄稿

黄昏の時代 オジサンオバサン達の物語

「空間シアター アクセブ × 劇団おんず 短編3部作」八戸公演

文／五十嵐 隆（八戸聖ウルスラ学院中学高等学校教員）

2025年7月20日（日）、スペースBENで公演された「短編3部作 空間シアターアクセブ × 劇団おんず」を観劇する。久々に目にする満席の観客席は、やはり気持ちがいい。

1本目、空間シアターアクセブ『気になる穴』（作・演出：田邊克彦）。訳ありの親族たちと同居する家の周りで穴を掘り続ける中年男性・恭介（演：森田誠）と、親族たちにウンザリしている妻・由美（演：小笠原真理子）。劇の中盤、妹の理恵（演：藤本一喜）が恭介を誘惑するシーンが強いアクセントになっている。「なぜ穴を掘っているのか」が明かされ、そこからラスト・シーンで妻の勧めた酒を飲む恭介の「何かを悟ったかのような表情」までの短い時間の間に、家族が崩壊していく様が静かに描かれる。醸し出される不穏な空気は演出の田邊克彦が描きたかった世界観だろう。ただ、登場人物たちが皆同じように「どこか持って回った口調」であったり、「なぜだか常に微笑みを湛えた表情」であるのが少し気になる（これらは現代口語演劇の悪い癖だ）。もっと登場人物を「普通の人々」として造形した方が観客は「わが身にも起こりうるドラマ」として、より物語の悲劇性を受け止めるようにも思うのだが。

2本目、劇団おんず『おかえり鮭太郎』（脚本：加藤健太郎）。認知症を発症した老人・善治（演：加藤健太郎）。三十年間断絶したままの父と子、その家族の再生が「鮭が戻ってくる」というエピソードに重ねられる。舞台上で用いられる言語は先のアクセブの「現代口語」とは異なり、様式化された舞台言語としての南部弁である。客席のあちこちから聞こえる涙をすすする音。ストーリーが観客に共感をもって受け止められたのだろう。やや不自然な状況設定や物語を全て言葉で説明する方法論に、あるいは違和感を抱く演劇ファンもいるかもしれない。だが、これはこれでありだろう。おんずの観客層はおそらく「何がどうなったのか、何故そうなのか」を全て説明して欲しいのだ。かつて天才・橋本治が喝破したように、歌舞伎以来の伝統的な日本の演劇にあっては、観客は「心」ではなく「論理」で感動するのだから。人の感動の仕方は色々である。

3本目、空間シアターアクセブ『飛んで、エアポート』（作・演出：田邊克彦）。小さな空港の待合室に閉じ込められてしまった3人の男女。片隅には3人と一切交わらない一人の男（演：田中勉）。外部と連絡が付くのに、なぜ閉じ込められたまま救いを求めないのか。就寝や排泄はどうしているのか。それら一切が描写されぬまま時が流れ、唐突に一機の飛行機がやってくるが…。待合室が此岸と彼岸の狭間であり、片隅の男が謎を解く鍵であることは早い段階から示唆される。だが、それでもなぜ彼らが閉じ込められたのか、なぜ「80年前に亡くなった父」が現れて、それに対し「娘（演：木村くに）が最後になるまで気づかない」のか。それら一切が説明されない。もちろん必ずしも全てが観客に語られる必要はないかもしれない。ただ、この作品の場合は「あえて舞台上で語らない」のではなく、作者自身のなかでこれらの世界観の整理がついていなかった印象も受ける。それでも、人生の折り返し地点を過ぎた者たちの迷いと葛藤、ままたぬ人生を描こうという作り手たちの意気込みは十分に伝わってきた。

今回の短編作品3編に共通するのは、いずれも人生にくたびれたオジサン、オバサン達の物語であるということだ。社会状況や様々な事情によって地方の演劇シーンからは今、若者の姿が失われつつある。街に大学の演劇サークルや有力な高校演劇部があって継続的に若い演劇人が育っているような環境でもなければ、地方の劇場はオジサンオバサンばかり。これも現代日本のひとつの姿なのだろう。逆に言えばオジサンオバサンの物語、「大人の演劇」が切実に求められる時代になったということでもある。黄昏の時代に、それでも紡がれる演劇とは何か。それはかつて狂騒の時代に演劇少年、演劇少女だった者たちへの新たな課題でもある。小賢しい理屈では割り切れぬ人生、矛盾に満ちた人間の姿。今回、それらを描くことに挑んだ空間シアターアクセブと劇団おんずの皆さんに拍手をおくるとともに、今後のさらなる活躍を期待したい。



空間シアターアクセブ『気になる穴』



劇団おんず『おかえり鮭太郎』



空間シアターアクセブ『飛んで、エアポート』

提供：八戸テレビ放送

●筆者近況

大館市にある“東北最後の戸建て映画館”、御成座（おなりざ）に行ってきました。昭和20年代の佇まいを残す奇跡のような映画館。かけられる映画だけでなく、その映画を求めて各地から集まってくる人々も刺激的。「芸能の神様に守られた聖地」と言いたくなるような素晴らしい空間でした。映画だけでなく音楽や演劇の公演も行われているとか。劇場とは本来、あのような空間のことをいうのかもしれませんが。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか？

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080 (6025) 0990 Fax.050 (3588) 8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



アバホテル

←至三日町 R340

セブイレブン

すずやかホーム

ゆうゆう

R45

NTT

至津高台方面↓

FANSってナンだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です（当日100円増し）。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。